

## 化粧品のコーセーは「カカオ種子抽出物」に 「紫外線による皮膚のフィブリリン産生低下を 抑制する」効果を確認

株式会社コーセー

人間の皮膚は紫外線、乾燥、低温によって、その老化の程度がきまる。

株式会社コーセーと星薬科大学薬学部臨床化学教室 輪千浩史(わちひろし)准教授は「カカオ種子抽出物」が「皮膚のフィブリリン産生低下を抑制する効果のあることを発見。今後、アンチエイジング研究に活かしてゆく。

人間の弾性線維(エラスチン線維)は皮膚に存在する伸縮性に富んだタンパク質であり、肌の柔軟性を維持する上で重要な役割を持っている。しかし、顔や首など、常に太陽光が当たる部分は年齢と共に弾性線維が変質して弾力性を失い、シワやタルミを形成する。

コーセーは「アンチエイジング研究」を進める中で、弾性線維形成の鍵となる「フィブリリン」と呼ばれるタンパク質に着目した。

弾性線維は繊維状のフィブリリンにトロポエラスチンというタンパク質が沈着、架橋することにより形成されている。フィブリリンは真皮線維芽細胞によって産生され、弾性線維を構築する上で重要な役割を果たすにもかかわらず、これまで詳細な研究がなされなかつた。そこで、コーセーは、日常生活で受ける紫外線

によって生ずるシワやタルミが発生するメカニズムを解明するため「紫外線を真皮線維芽細胞に照射した場合のフィブリリンの産生」や、「線維構築への影響」を星薬科大学 薬学部臨床化学教室との共同研究によって検証した。

実験は、「培養した真皮線維芽細胞へ、日常生活で受けるエネルギーと同レベルの紫外線(UV-A)を照射」し、フィブリリンの産生や線維形成への影響を調べるもの。

この結果、「紫外線を照射するとフィブリリンの産生量が減少する」ことを確認、さらにフィブリリンの線維が寄り集まった構造を作ることを発見する。

そして「カカオ(Theobroma cacao L.)種子抽出物」が紫外線照射によるフィブリリンの産生低下と線維形態変化を抑える効果があることを突き止める。つまり、「カカオ種子抽出物」には、紫外線による真皮中の弾性線維の変性を抑制する効果が期待できるのだ。

この結果は、2008年3月の第128回 日本薬学会にて発表しました。

さらに、この技術は9月発売の高級ブランド「コスメデコルテ」の新スキンケアブランドへ応用する予定、という。